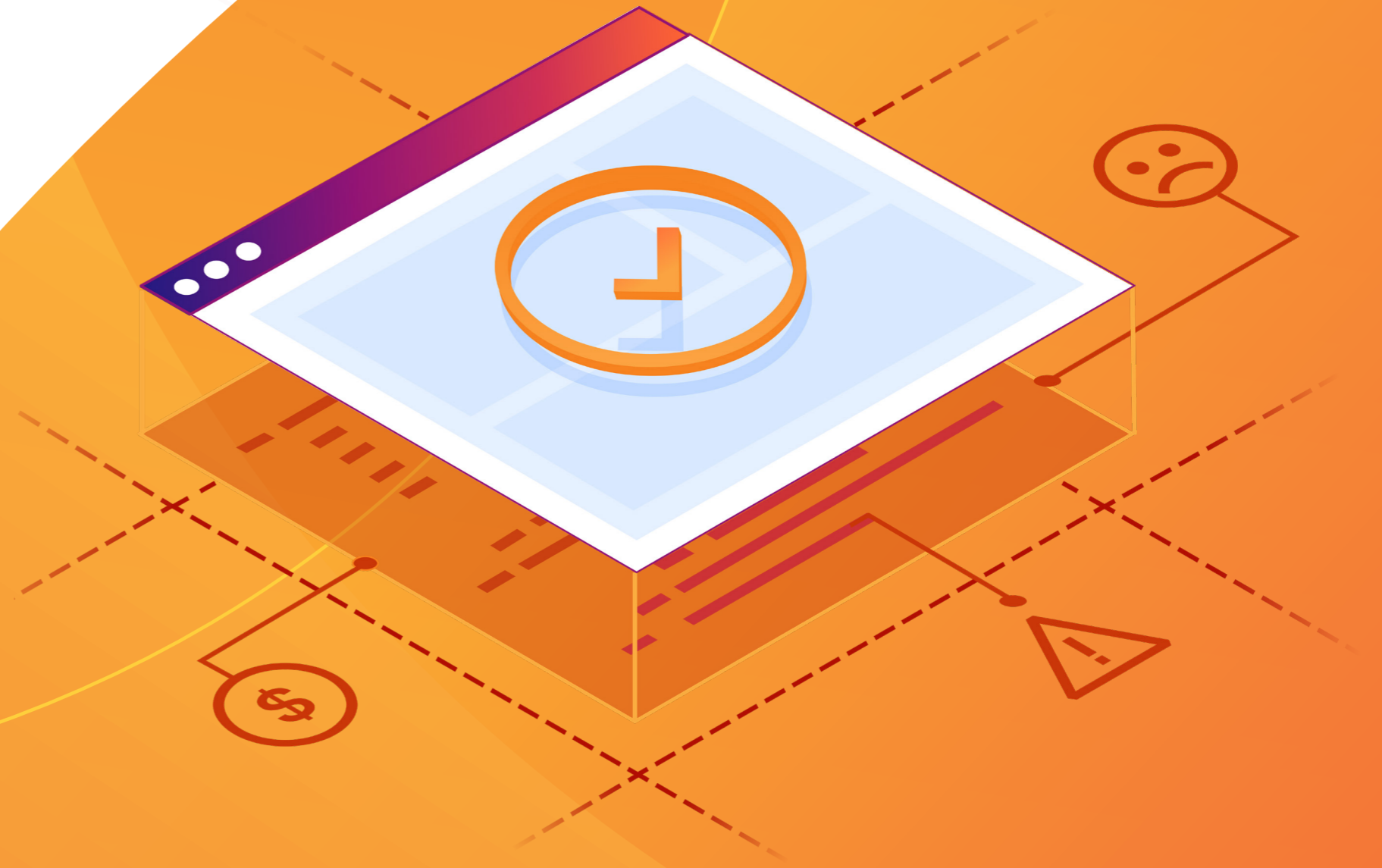


電子書籍

コンプライアンスに対する 3つのセキュリティツールの 課題の克服

コネクティビティクラウドがコンプライアンスリスクを
低減する仕組み



3	現在のコンプライアンスの在り方	8	合理化されたコンプライアンスのために欠かせない4つのこと
4	コンプライアンスに対する上位3つの課題	9	新たなアプローチ:結果
5	課題への対処に必要なもの	10	お客様の声
6	新たなアプローチ	11	まとめ
7	新たなアプローチ:その仕組み		

現在のコンプライアンスの在り方：より少ないリソース、変わりゆく規制要件

拡大を続けるデジタル脅威と規制監督による精査に直面するこの時代、データプライバシーと情報セキュリティ関連法規制の順守はほとんどの組織にとって圧倒的なハードルとして立ちはだかります。テクノロジーの集束、グローバルなデータ共有、変遷を続ける規制枠組みが、データコンプライアンスを保とうと取り組む組織にとって複雑な問題を生み出しています。

それでも多くのケースでは、コンプライアンス担当責任者はこれまでにない少ないリソースでやりくりせねばならず、以下の課題に直面しています。



より小規模な予算



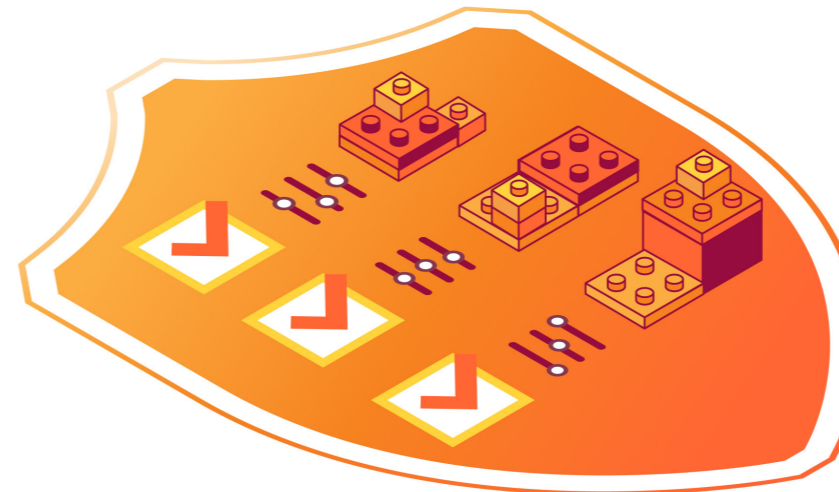
人員削減



上昇するコスト

コンプライアンス担当部門は、組織がEU一般データ保護規則 (GDPR)、PCI DSS (Payment Card Industry Data Security Standard) などの規制枠組みの要件を満たすことを目指しています。しかし現在、これらの担当部署は、IT部門がコントロールを失ったデジタル環境でこれに取り組んでいるのが現状です。

デジタルモダナイゼーション、リモートおよびハイブリッドワークの普及、AIの模索は、IT部門の責任者がついてくのに四苦八苦するほどの広大な攻撃対象領域を生み出しました。一方で、旧型のコンプライアンスソリューションとアプローチは、限界点で制約されている状況です。



53%

技術的プライバシー
担当者数が不足してい
る組織の割合

既存のセキュリティアプローチで見られるコンプライアンスの上位3つの課題

デジタル環境の変化に伴い、セキュリティおよびコンプライアンス担当者は、散在した操作ログと監査システムを統合する手動プロセスに頼る旧式のツールとポイントソリューションの組み合わせに対処することに迫られています。しかしこの手法では、以下の3つの課題に直面することになります。

1. コストの高騰

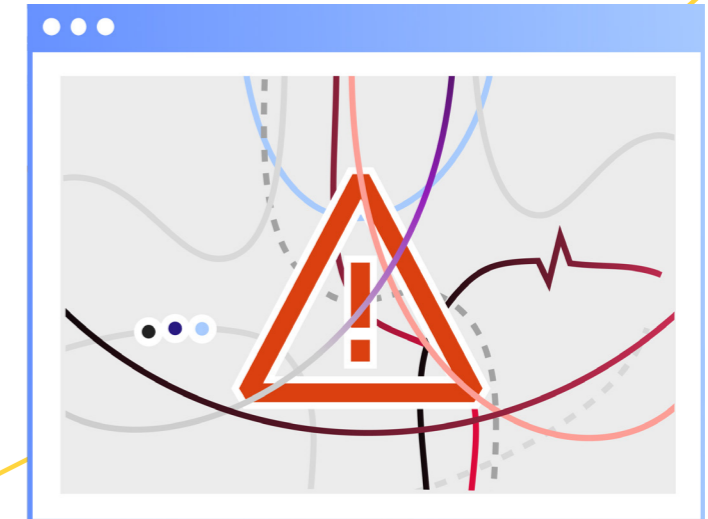
コンプライアンス担当部門は、データセキュリティ、主権、プライバシーのために複数のサイロ化されたツール（統合することもあればしないこともある）に費用を払い維持しなければならず、コストが上昇しています。

2. 高リスク

バラバラなツールが多すぎるため、監査要件を満たすためにログをまとめ合わせる手作業が必要になります。この作業は、対応速度の鈍化、作業ミス、膨大な時間と労力を浪費します。

3. ユーザーエクスペリエンスの劣化

旧型のオンプレミスなセキュリティソリューションが、アプリのパフォーマンスを鈍化させるネットワークボトルネックを生み出しています。データローカリゼーションの制約により、この問題はいよいよ深まっています。



こうしたコンプライアンスの課題に対処するために必要な能力とは



1. オンプレミス、クラウド、Web環境に渡り、一貫したデータ保護とセキュリティポリシーを提供する、統合されたポリシーエンジンとして機能する単一のコントロールプレーンから**合理化されたルールを作成する能力**。



2. いつでも必要な時に、場所、ユーザー、データ、アプリ (Web、SaaS、プライベート) とインフラストラクチャに渡って**一貫した管理を適用、構成および拡大する能力**。SaaSおよび事業継続に必須となるアプリケーションへの粒度の高いアクセス制御、データ抜き取りを防ぐためのPII向けHTTPトラフィックの検査、サプライチェーン攻撃など、エンドユーザーのブラウザ保護拡張可能な管理と共に、制定されたと同時に規制要件に適合する能力。



3. パフォーマンスの課題を伴わない、**地域的なコンプライアンスニーズのためのデータのローカライズする能力**。ローカリゼーション要件に対応できるネットワークを使用して、データローカリゼーションニーズが事業上の機敏性を損なわないことを保証する能力。



4. コンプライアンス要件の順守を支えるための、データの送信元と送信先の間での制御を確保する一連の一貫した検出および回避ポリシーにより、ネットワークとマルチクラウド環境に渡ってのセキュリティ、データ可視性、分析、レポートを**確保する監査能力**。

新たなアプローチ：コネクティビティクラウドによる、合理化されたコンプライアンス

コネクティビティクラウドは、ユーザー、データ、インフラストラクチャ、そしてアプリをその所在地に関わらずセキュアに接続するための新たなモデルです。このモデルは、ネットワークとセキュリティに関する制御を組織に取り戻すだけでなく、セキュリティおよびコンプライアンス部門が直面する大きな課題にも対処します。

✓ 1. TCO (総所有コスト) の削減

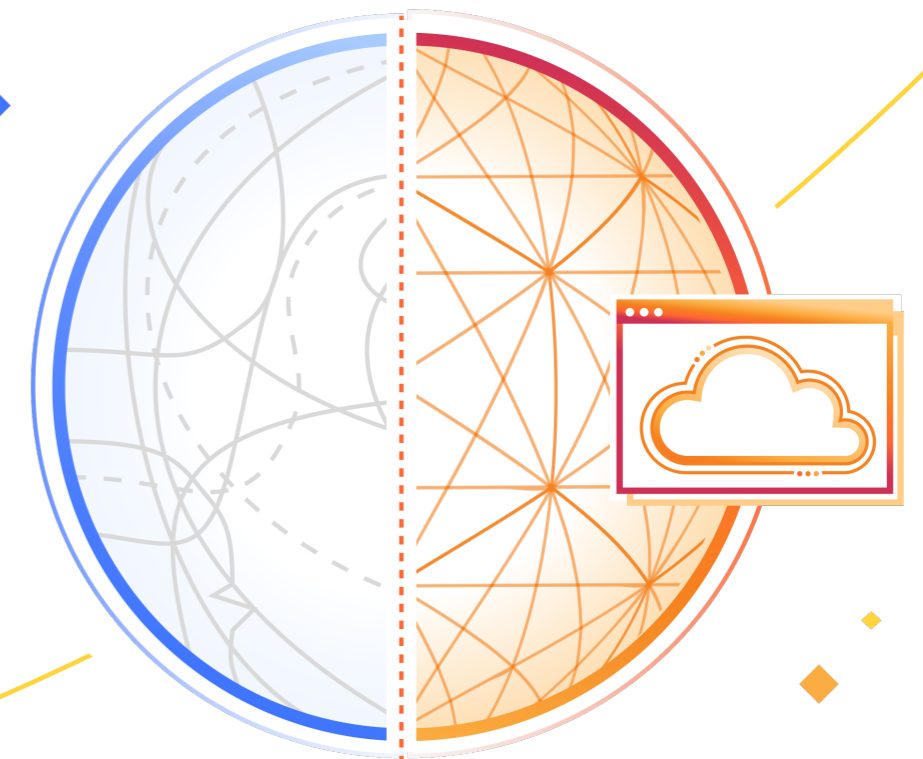
コネクティビティクラウドは、オンデマンドでスケールできる単一のプラットフォームにあらゆるサービスを統合するものです。

✓ 2. リスクの低減

コネクティビティクラウドは、認証、セキュリティ、ネットワーキング、ロギングなどの制御を設定できる単一のダッシュボードを提供します。

✓ 3. ユーザーエクスペリエンスを向上

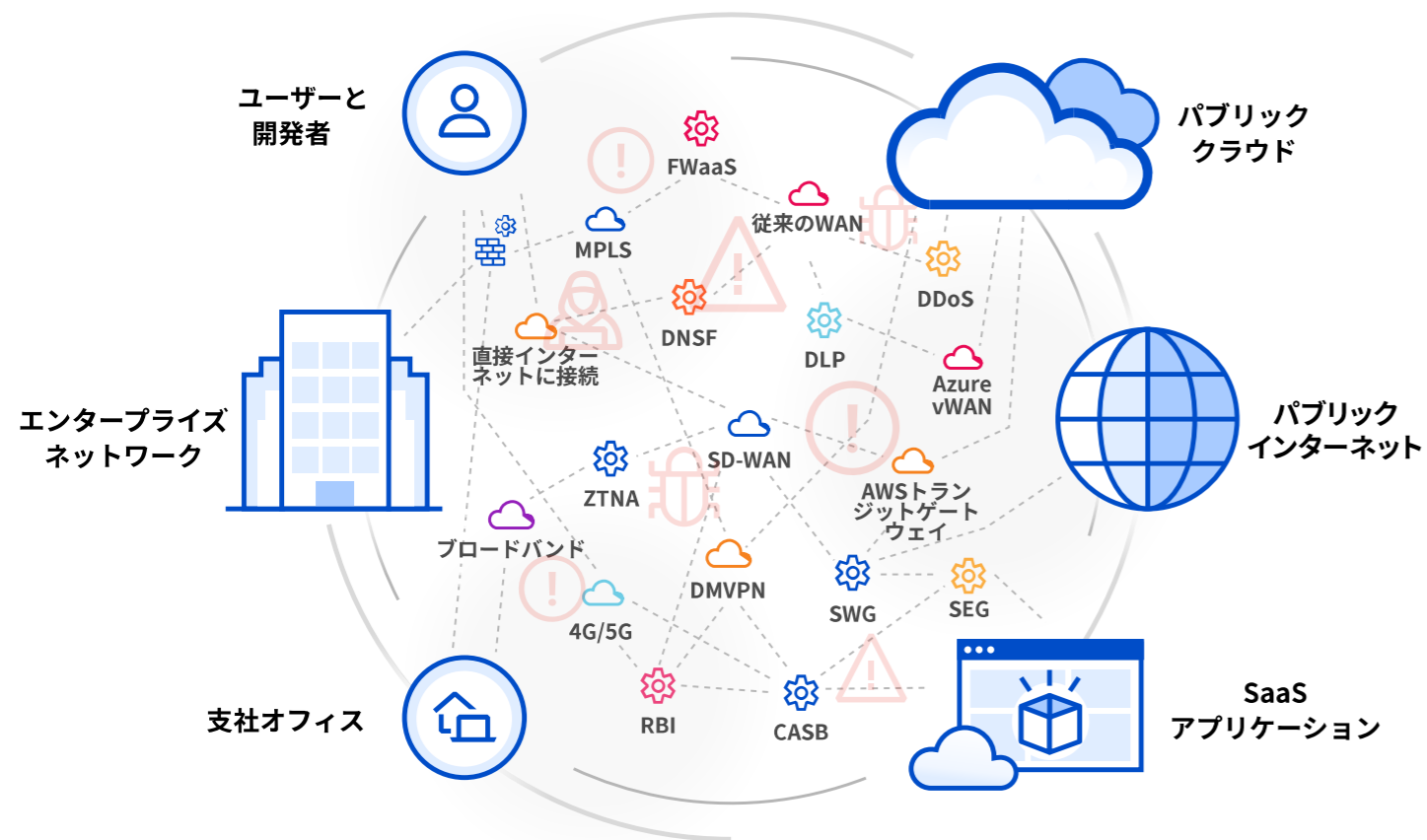
コネクティビティクラウドは、場所にとらわれず、世界のどこからでも効率的に接続できます。



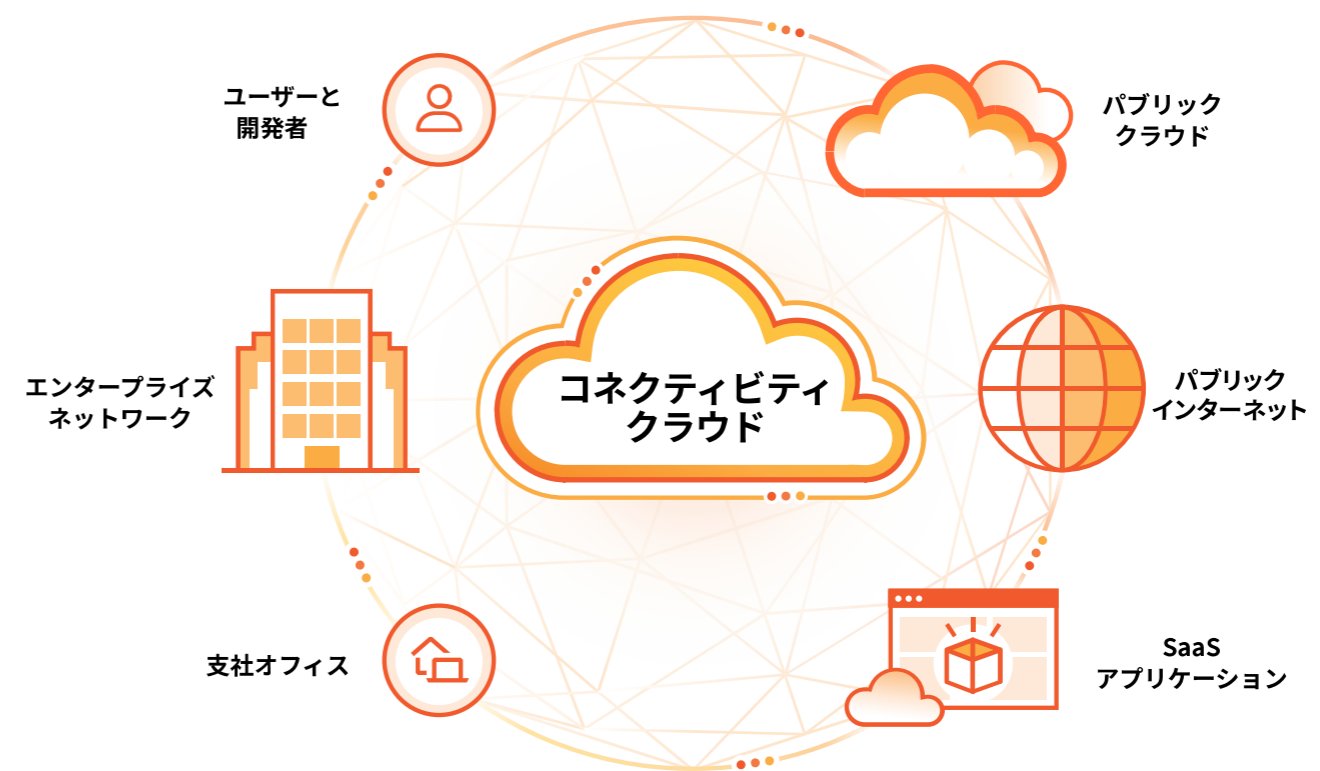
新たなアプローチ: その仕組み

クラウド、SaaS、インターネット、オンプレミスドメインは、本質的に異なりバラバラに存在しています。可視性とコントロールの維持が難しくなり、複雑さを緩和しようとツールを使っても、一層複雑になるだけです。コネクティビティクラウドは、サイロ化を深め組織を揺り動かすのではなく、サイロをつなぎ合わせます。

現状



未来



合理化されたコンプライアンスのために欠かせない4つのこと

1. データコンプライアンス向けのアーキテクチャ化:

Cloudflareは、あらゆるコネクティビティクラウドプロバイダーの中で最大かつ最強のネットワークを擁し、グローバルで数百単位の都市に拠点を構えています。これにより、世界中のロケーション、ユーザー、アプリ、データ、そしてインフラストラクチャに渡ってのコンプライアンスチームによる一貫したセキュリティコントロールの適用、構成、拡大が可能になります。



2. 統一型ポリシーエンジン:

Cloudflareネットワークは、あらゆるロケーションで同一のサービスを提供できます。コンプライアンス担当部門は、統合されたポリシーエンジンとして機能する単一のコントロールプレーンから一度にルールを記述でき、貴社環境全体に適用できます。Zero Trustアクセス、データ保護、アプリケーションセキュリティなどのルールを適用できます。



3. パフォーマンスを鈍化させないデータ主権とローカリゼーション:

Cloudflareは、データローカリゼーションを実現できるように構築されています。すべてのトラフィックを最短距離のデータセンターに送ることで最適化されたパフォーマンスを実現する一方、ログはセキュアにプライベートネットワークのバックボーン上であらゆる指定地域に送られます。



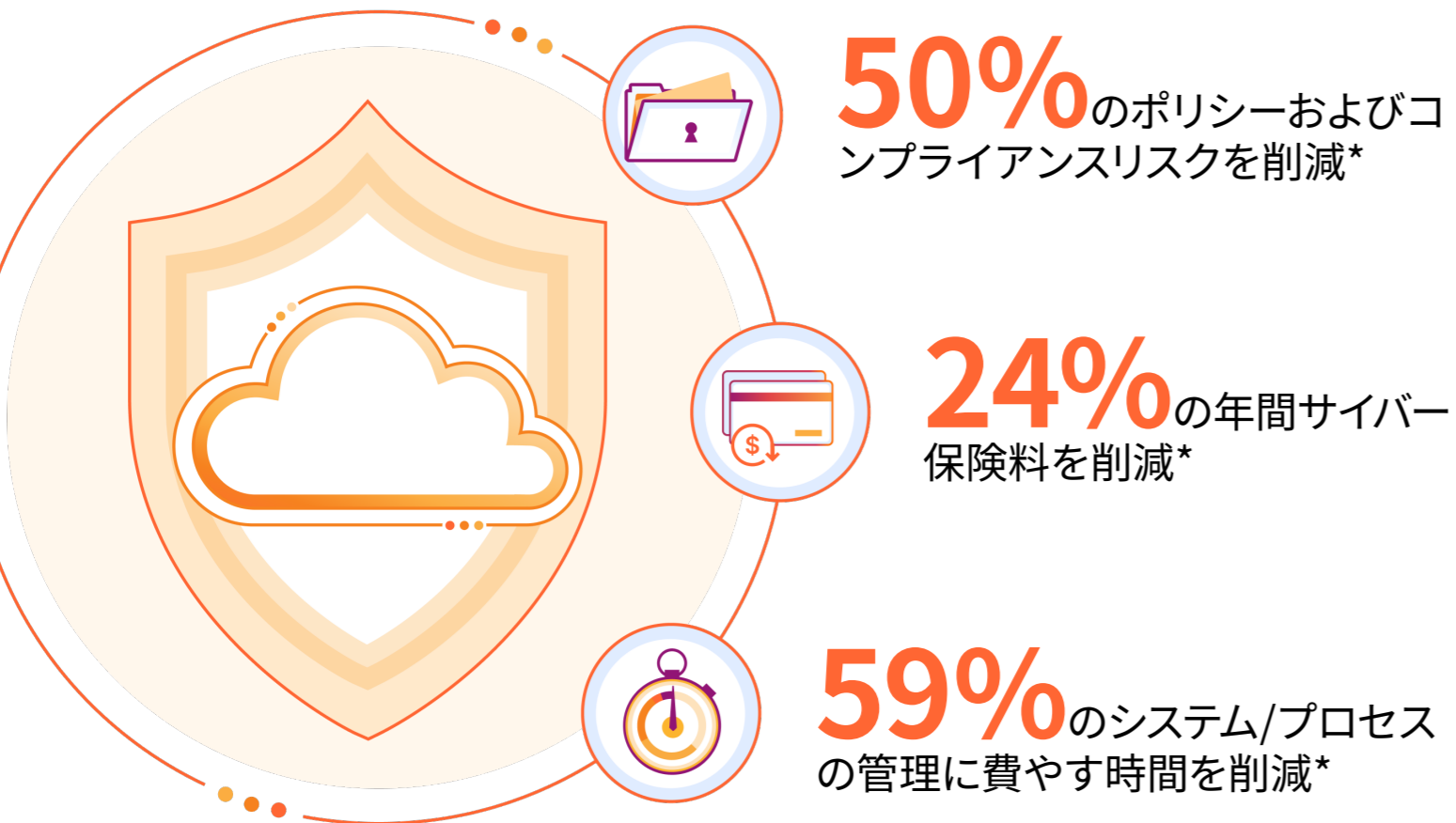
4. インテリジェントなレポートで監査に対応:

Cloudflareのレポートは、詳細な監査証跡を提供します。Cloudflareの膨大なスケールにより、インターネット全体から最新の脅威を可視化し、新たな攻撃をインテリジェントな自動検出を実現します。



新たなアプローチ：結果

Cloudflareコネクティビティクラウドは、リスクを最小化しながら、コンプライアンスを合理化します：



* 50%—Cloudflare 2023年コネクティビティクラウド調査の統計値

* 24%—『2023 Cloudflare TechValidate Survey of Cloudflare App Service Customers』からの統計値

* 59%—『2023 Cloudflare TechValidate Survey of Cloudflare App Service Customers』からの統計値

結果：単一のダッシュボードから管理できる、コンプライアンスとデータのためのよりシンプルでカスタマイズ可能なアプローチ。

加えて、コンプライアンス責任者はCloudflareネットワーク上のデータはセキュアであるとの安心を得られます。Cloudflareは、次の規制要件に対し、ネイティブにコンプライアンス要件を満たします：

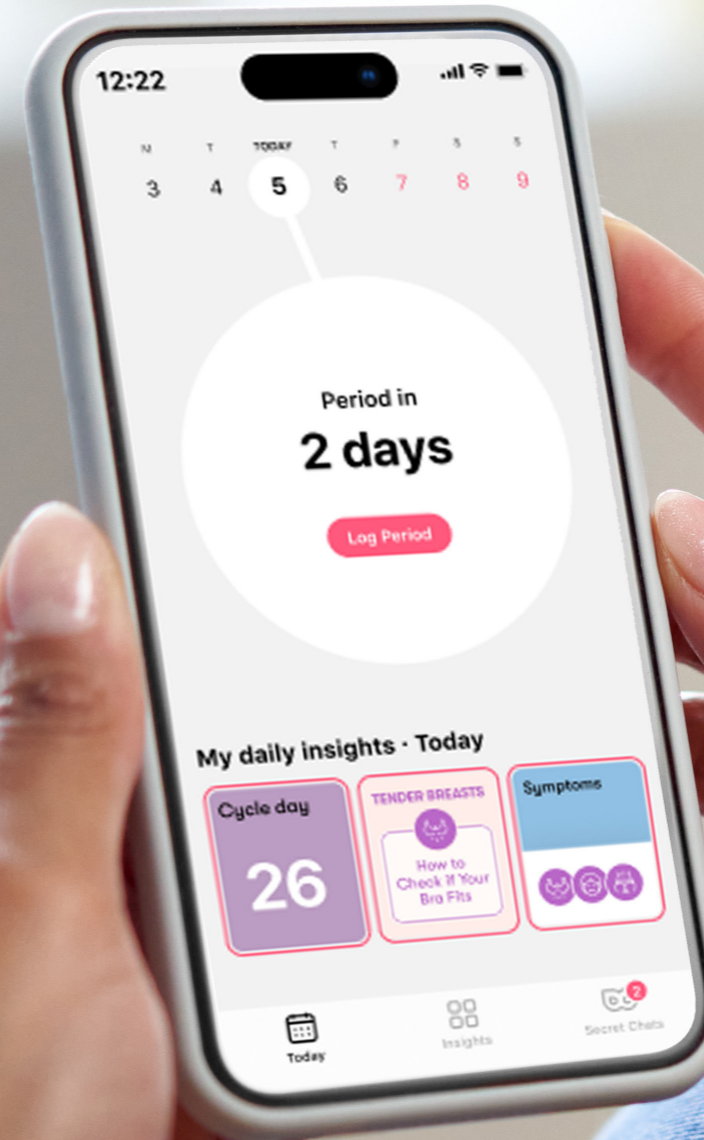
- [PCI](#)
- GDPR
- SOC 2 Type II
- FedRAMP

全一覧の詳細は、次のURLでご覧いただけます：cloudflare.com/trust-hub



「Floでは、あらゆる女性が一切の懸念なく自分の健康状態を追跡できる権利を有するべきだと固く信じています。Cloudflareの一連の製品により、弊社ユーザーのデータの保護レベルをさらに深めることが可能となっています。」

—Roman Bugaev氏、CTO、[Flo Health社](#)

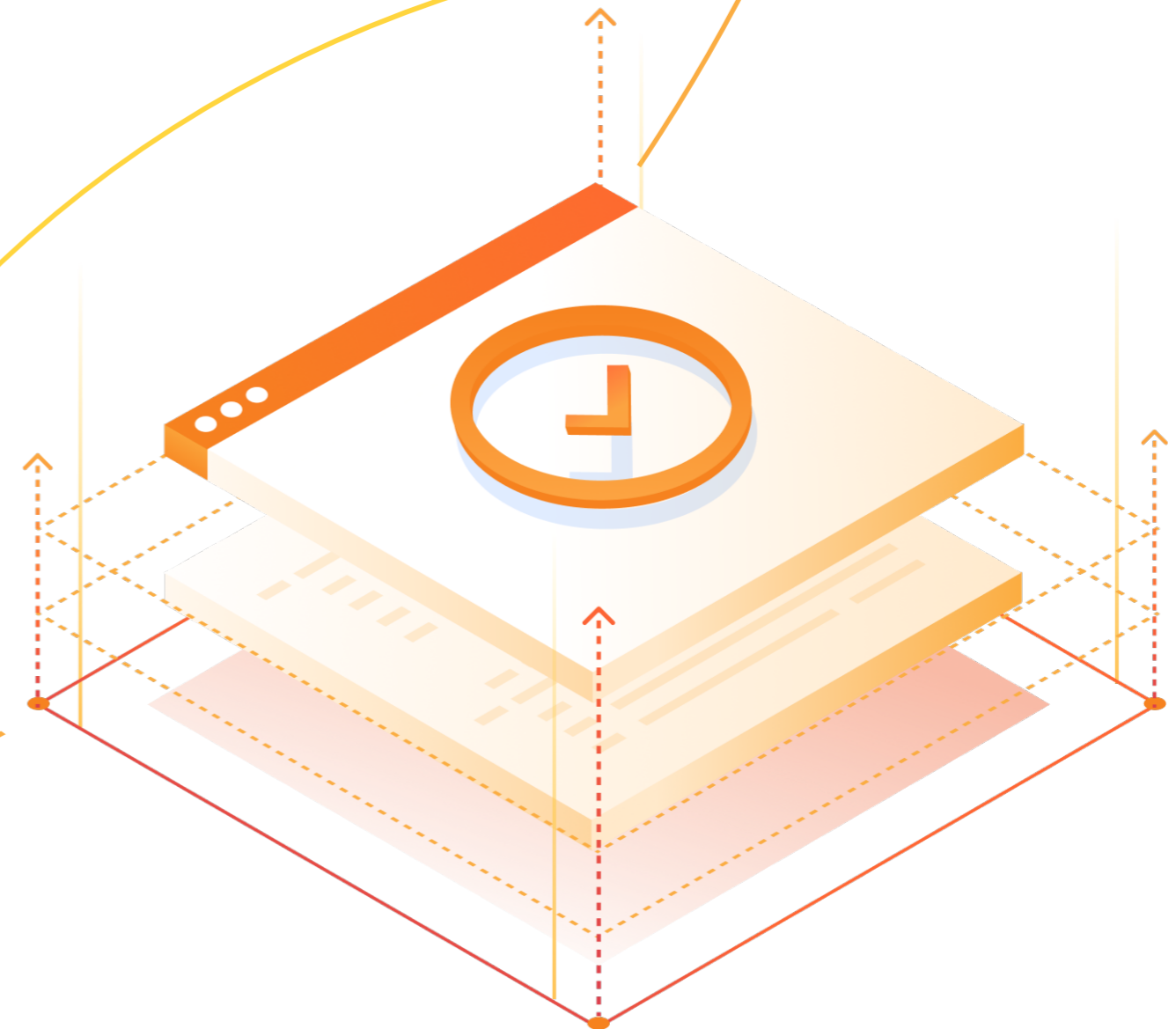


まとめ

コンプライアンス責任者は、規制要件適合に当たっての現在の課題克服のため、新たなアプローチを必要としています。

規制要件順守のための旧型セキュリティソリューションは、高価かつ非効率、対応速度は遅いものとなっています。データの所在地に関わらず規制要件を順守できるように設計された完全版プラットフォームであるコネクティビティクラウドを活用することで、コンプライアンス責任者はこうした課題を克服し、永遠に解決できるようになります。

Cloudflareのコネクティビティクラウドは、ポリシーの強化およびデータのローカリゼーションのための構成可能な管理を備え、組織におけるコンプライアンス対応の合理化を支えています。Cloudflareは、TCO（総所有コスト）を削減しつつ、コンプライアンス担当部門によるイノベーションまたはパフォーマンスのスピードを落とすことのないデータコンプライアンスへの対処を可能にします。



詳細を見る

データコンプライアンスのニーズを満たす コネクティビティクラウドの利用方法について

© 2024 Cloudflare Inc. All rights reserved. Cloudflareロゴは、Cloudflareの商標です。その他、記載されている企業名、製品名は、各社の商標または登録商標である場合があります。

メール: enterprise@cloudflare.com
ウェブサイト: cloudflare.com/ja-jp

更新: BDES-5701.2024APR29